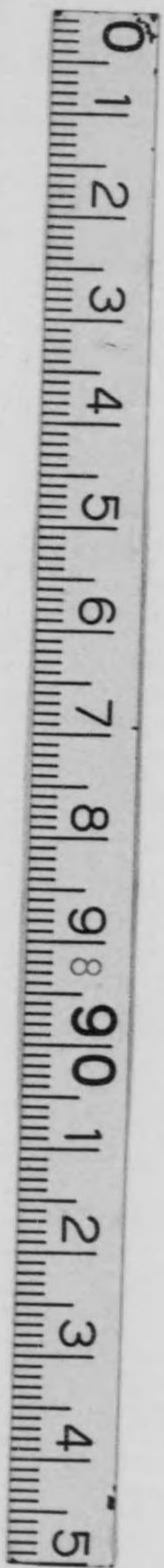


14  
80

大正八年度業務功程報告

福岡縣水產試驗場



始



1424-857



天正九年八月

日

### 緒言

茲ニ大正八年度ニ於ケル本場施行ニ係ル各種試験  
 並ニ調査事項ノ梗概ヲ録シ業務功程トシテ刊行ス  
 而シテ其成績結果ニ至リテハ各々業務ノ完了ヲ俟  
 チ詳細絮述シ更ニ梓ニ付シ一般ニ配布セントス

大正  
 9. 11. 18  
 内交

水産試験場長 金近義之助

# 大正八年度業務功程報告

## 目次

- 一、母船式網延繩漁業試験
- 二、小臺網漁業試験
- 三、コールター染料普及並ニ樹網局部改造試験
- 四、機船手繰網漁業試験
- 五、漁業基本調査
  - (1) 有明海干潟實測
  - (2) 海洋觀測
    - イ、玄界灘横斷觀測
    - ロ、豊前海横斷觀測
    - ハ、有明海海洋觀測
- 六、鯉兒配布

一 一 三 三 四

七、公魚移殖試驗

八、有明海干潟利用試驗

- (1) 住ノ江牡蠣養殖試驗
- (2) 彌敷貝養殖試驗
- (3) 鮎貝養殖試驗
- (4) 海苔養殖試驗

九、玉筋魚ノ精試驗並ニ鰵油漬罐詰講習

十、漁業取締

十一、指導並ニ講習講話

- (1) 鰵油漬罐詰指導
- (2) 養殖指導
- (3) 漁船々員講習
- (4) 鰵節製造講習
- (5) 水産講話

一八  
二二

四八  
四九  
五〇

# 大正八年度業務功程報告

## 一、鯛延繩試驗

技手 林 卯 吉

本試驗ハ大正六年ヨリ繼續試驗ニシテ前二ケ年度ハ漁業組合ト共同組織トシ漁船ヲ引曳シテ出漁セシ  
 モ漁場探險其他試驗施行ニ就テハ經濟上相容レサルノ點アルノミナラス假令操業ノ際ハ漁船大ニシテ  
 比較的安全ナルモ荒天ニ會セハ其引曳頗ル危險ニシテ殊ニ秋冬荒海ノ漁場ニ於テハ其出漁回數ヲ殺滅  
 セラル、缺點アルヲ以テ本年度ニ於テハ本場直營ノ方法トシ新タニ小漁艇三隻ヲ建造シ純母船式トシ  
 業務ノ都合上十一月十二月ノ兩月ニ亘リ主トシテ縣下小呂島附近ヨリ壹岐北東沖合ニ於テ試驗ヲ施行  
 セシカ十二月申一稀有ノ荒天打續キ出漁意ノ如クナラス充分ナル作業ヲ爲ス事能ハス從テ漁獲高亦豫  
 定ニ達セサリシト雖モ小漁艇ノ作業ニ關シテ操業輕快ニシテ大ニ當初ノ期待ニ副ヘリ尙ホ次年度ニ於  
 テ更ニ試驗セントス

## 二、小臺網漁業試驗

技手 岸 田 十 雄

本試驗ハ大正六年度ノ創始ニシテ本年度ハ即チ第三回ノ試驗ニ屬ス、而シテ前年ト全様糸島郡小富士  
 村宇船越鷺首ノ漁場ニ於テ試驗ヲ施行セリ。

前二ヶ年ノ結果ヲ徴スルニ何レモ相當ノ成績ヲ擧ケタリト雖モ初年度ニ於テハ漁具ノ建設後レテ盛漁期ヲ逸シ又次年度ニ於テハ早期ヨリ準備シ小鰈ノ隣影ヲ認メタル當初直ニ敷設シタルモ鰈ノ形体小ニスギ網目ヲ通過シ或ハ鰈蓋ヲ刺シテ疲斃スルモノ多ク充分ナル成績ヲ見ルコト能ハサリキ。

故ニ本年度ニ於テハ此等ノ經驗ニ鑑ミ袋網地ノ大部分細目網ヲ以テ新調シ又乘網口ノ形狀ニ注意シテ魚乗リヲ良好ナラシメ其他垣網ノ方向、張碇等周到ナル注意ヲ拂ヒ十月十七日建設ヲ了シ漁船二隻、漁夫七名ニヨリ朝夕二回宛操業シ十二月二十六日終了シタリ

本年ハ鰈群ノ來游多ク且ツ海水、温暖ニシテ十二月末ニ至ルモ尙相當ノ漁獲アリ、斯クテ前後三回ノ豊漁ヲ見タリ、而シテ鰈群ノ一度ニ廻游シ來ルヤ數日間ハ外海ニ去ルコトナク食餌ヲ求メツ、灣内ヲ轉々廻游セルモノ、如ク連日豊漁スルヲ常トス。

本試験中網地ノ染替、修繕其他天候等ノタメ休漁シタルハ僅ニ數日ニシテ總漁獲高三千四百九十四圓ニ達シ好成績ヲ收ムルコトヲ得タリ。

本試験ノ結果該漁場ノ優秀ナルヲ立證シ得タルト同時ニ本漁業ノ有利ニシテ且ツ經營ノ容易ナル事一般業者ノ信スルトコロトナリ、茲ニ本試験モ終結シタルヲ以テ來年度ヨリハ専ラ業者ニ於テ經營スル事トナリ本試験ノ目的ヲ貫徹スル事ヲ得タリ

### 三、コールター染料普及並ニ柵網局部改造試験(雜試験)

技手 岸 田 十 雄

本試験ハ前年度ノ事業ニ屬スレバ漁期ノ都合上三月下旬ヨリ四月以降即チ本年度ニ跨リ繼續施行セルモノニシテ即チ三月十九日ヨリ十月六日ニ至ル期間漁況ニヨリ隨時使用セリ、其ノ敷込日數ハ五十餘日ニ過キサレバ總水揚高四百〇六圓ニ達シ好結果ヲ收メ得タリ。

而シテ敷設ノ當初天井及底網ヲ取付ケ沖合ノ深所ニ全部沈下シテ試験セシカ潮流ノタメ充分ナル試験ヲナスコト能ハスシテ中止シ其後ハ底網ノミ取付ケ淺所ニ於テ使用セシトコロ魚類ノ脱出ヲ防止スルニ効果アルヲ認メタリ、又天井網ノ効果如何ニツキテハ今俄ニ斷スルコト能ハサレバ潮流ノ極メテ緩ナル漁場ニアリテハ相當ノ効果アルヘキヲ信スルカ故ニ他日ノ試験ニ俟チテ論スル事トスヘシ。

本試験ノ成績ニヨリ魚類カ特ニコノ染料ヲ回避スルカ如キ事ナキヲ立證シ得タリ。

### 四、機船手繰網漁業試験

技手 濱 島 琢 三

本年度中頃ヨリ組織的漁業トシテ認メラレタル島根縣式發動機手繰網漁業試験ハ生命安全ニシテ努力少ク利益多クシテ漁業發達ノ要素ヲ具備セルヲ知り英彦丸ヲ以テセル打瀬網試験ヲ變更シ之レカ試験ヲ行ヒ其目的トスル所ハ漁場探検、魚群ノ移動調査、漁具漁法ノ改良、漁船々員ノ養成ニアリキ然レ

トモ豊前海ニ於ケル事務多留ニシテ二月迄之レカ實行不可能トナリ尙又二月ヨリ天候不順ニシテ其目的ヲ達スル事能ハサリシヲ以テ遺憾トス

### 五、漁業基本調査

#### (1) 有明海干潟實測

技手 藤 森 三 郎  
測量手 井 上 多

淺海干潟ノ完全ナル利用開發策ヲ考究センニハ先ツ之カ前提トシテ干潟ノ實測ヲ行ヒ其ノ面積、高低、土質、生物分布狀態等ヲ明瞭ナラシムルニ非レハ、具體的計劃ヲ樹ツルコト難シ、之ヲ以テ有明海ニ於テハ大正六年度ヨリ本事業ヲ企劃施行シタルカ、本年度ヲ以テ全部ノ終了ヲ告ケタリ、本事業ハ潮汐ニヨリ行動ヲ支配セラレ、ノミナラス、天候ノ爲メ左右セラル、コトモ多ク且沖合ヲ除クノ外底質泥土ニシテ歩行ニ耐ヘサル等支障甚タ多ク爲メニ事業施行上多大ナル困難ヲ感シタルモ能フ限リ精密ナル測量ヲ行ヒテ茲ニ其ノ完成ヲ見、諸般ノ調査、試驗、行政並ニ企業上至大ノ裨益ヲ得、尙從來行ヘル干潟利用試驗ニ對シテモ爲メニ一大指針ヲ得タルハ欣幸トスル所ナリ。

有明海ニ於ケル本縣領海總面積ハ一萬一千二百四十七町步(七・二三平方里)ニシテ内干潟面積六千三百三十二町步ヲ有セリ。干潟地盤ノ高低ハ年間最大干潮點ヲ基準トシ一尺毎ノ傾斜ヲ測定セルガ、沿岸ハ十三尺乃至十六尺ニシテ特殊ノ影響ヲ蒙ル大牟田地先ノ如キハ稀ニ十八尺ニ及フ所アリ、而シテ

沖合ノ洲ハ最高八尺ニ達セス。大体ニ於テ沿岸ハ地盤平滑ニシテ海岸線ニ沿ヒ、殆ント全一勾配ヲ有シ土質ハ一般ニ泥分多ク特ニ黒崎以北ハ極メテ軟弱ナル純泥土ニシテ之ヨリ大牟田市地先ニ至ルニ從ヒ砂ノ分量ヲ増ス、沿岸ヨリ沖ニ進ムニ從ヒ地盤ノ起伏凹凸著シキモ沿岸ニ比シ勾配緩ニシテ漸次砂ヲ加ヘ硬度ヲ増シ遂ニ砂質ノ洲ヲ作ス。土質及生物分布狀態ハ必要ノ程度ニ應シ百間乃至二百間毎ノ碁盤目狀ニ調査ヲ行ヘルカ其ノ狀態頗ル複雑セリ。而シテ生物ノ分布ハ主トシテ地盤ノ高低、土質、海水比重並ニ潮流ノ方向速度ノ四大條件ニ支配セラレ、モノナルヲ明ニセリ。就中地盤ノ高サ即チ干出時間ハ其ノ第一條件トス、例ヘハ有要貝類中最モ沿岸ニ近ク生息スルモノハ蠔貝ナレ共而モ標高十三尺以上ニハ發生セス而シテ低所ハ大干潮面以下ニ及ヘ共、普通潟面ニテハ海水比重ノ關係ニヨリ八尺内外ヲ以テ限界ト爲ス、又めかじあ(しやみせんがい)ハ八尺乃至五尺ノ間ニ發生シ、あさり、みろく貝、たいらぎ、からす貝、うば貝ノ如キハ何レモ五尺以下ニ非レハ發生ヲ見ス、即チ現時ノ重要貝類ノ多クハ大干潮面ヨリ五尺迄ノ間ニ發生スト云フヲ得。而シテ海苔、牡蠣等ニ於テモ同様ニ各種類ニ應シ高サニ對スル一定ノ限界ヲ有スル事干潟利用試驗ノ項ニ記セルカ如シ。要スルニ地盤ノ高サハ貝藻類ノ發生ニ對シ密接ナル關係アルヲ證スルニ足ル。其ノ他土質、海水比重、潮流モ亦重要ナル條件ニシテ、爲メニ等高線内ニ於テモ不發生ノ場所ヲ生シ、斯クノ如クシテ各種類ニ應シ復雜ナル分布狀態ヲ呈スルニ至ルモノトス。本調査ノ結果ト干潟利用試驗ノ結果トヲ綜合シ以テ干潟ニ對スル徹底

六  
的利用方策ヲ研究セルカ之等ノ詳細ニ就テハ目下調査書ノ編述中ニアルヲ以テ完成ノ上報告ヲ期ス

(2) 海洋観測

(1) 立海灘横断観測

技手 林 卯 吉  
安 西 清

大正元年度ヨリ繼續シ流船立海丸ヲ以テ之レヲ施行スルモノニシテ観測點ヲ立界島沖ヨリ對馬巖原沖ニ至ル間ニ於テ七點ニ區分シ毎月々初ニ一回之レヲ行フ事其他大体ニ於テハ從來ト大差ナシ観測ノ結果左ノ如シ

氣温

- 第一點 一月ヨリ十二月ニ至ル十二回中最高温度ハ九月ニ表ハレ二十八度六ヲ示シ最低温度ハ二月ニ表ハレ九度一ニシテ平均十六度五ナリ
- 第二點 最高ハ九月ニシテ二十八度五ヲ最低ハ三月ニシテ十度一ヲ示シ平均十九度四ナリ
- 第三點 最高ヲ九月ニシテ二十九度ヲ最低ハ三月ニシテ十度ニ示シ平均十八度五ナリ
- 第四點 最高ハ九月ニアリテ二十八度ニテ最低ハ二月ニアリテ六度七ヲ示シ平均十九度五ナリ
- 第五點 最高ハ九月ニアリテ二十七度五ヲ最低ハ二月ニシテ六度八ヲ表ハシ平均十八度三ナリ
- 第六點 最高ハ九月ニシテ二十八度ニテ最低ハ二月ニシテ六度三ヲ表ハシ平均十八度三ナリ

第七點 最高ハ九月ニシテ二十七度八ヲ最低ハ二月ニシテ五度七ヲ表ハシ平均十七度八ナリ  
以上各點ヲ通スル最高ハ第二點ニ於ケル九月ノモノニシテ二十九度ヲ最低ハ第七點ニ於ケル二月ノモノニシテ五度七ナリ。又各點ノ一ヶ年平均温度ニ付テ見ルニ其最高ハ第四點ノ十九度五ニシテ最低ハ第一點ノ十六度五ナリ。而シテ全観測一ヶ年ノ平均氣温ハ十八度三ナリ

水温

- 第一點 上層 最高ハ九月ニシテ二十五度六ヲ最低ハ二月ニシテ十一度一ヲ示シ平均十八度二ナリ。  
下層(底部、以下之同)最高モ亦九月ニシテ二十五度五ヲ最低ハ二月ニシテ十一度ヲ示シ平均十七度九ニシテ上層ヨリ〇、三度低シ
- 第二點 上層 最高ハ九月ニシテ二十六度一最低ハ三月ニシテ十三度九ヲ示シ平均十九度四ナリ。  
下層ノ最高ハ九月ニシテ二十四度七ヲ最低ハ三月ニシテ十三度九ヲ示シ平均十七度二ニシテ上層ヨリ低キコト二度二ナリ
- 第三點 上層 最高ハ九月ニシテ二十六度四ヲ最低ハ三月ニシテ十四度八ヲ示シ平均十八度二ナリ。下層 最高ハ九月ニシテ二十一度九最低ハ十四度三ヲ示シ平均十八度ニシテ上層ヨリ〇、二度低シ
- 第四點 上層 最高ハ九月ニシテ二十六度四ヲ最低ハ二月ニシテ十四度三ヲ示シ平均十九度八ナリ。下層 最高ハ九月ニシテ二十度五、最低ハ二月ニシテ十四度三ヲ示シ平均十七度ニシテ上層ヨリ低キ

コト二度八ナリ

第五點 上層最高ハ九月ニシテ二十六度九ヲ最低ハ二月ニシテ十五度ニヲ示シ平均二十度五ナリ。下層ノ最高ハ十二月ニシテ十八度七ヲ最低ハ二月ニシテ十四度四ヲ示シ平均十六度六ニシテ上層ヨリ三度九低シ

第六點 上層最高ハ九月ニシテ二十六度一ヲ最低ハ二月ニシテ十五度一ヲ示シ平均二十度ナリ。下層最高ハ十二月ニシテ十八度三ヲ最低ハ二月ニシテ十度一ヲ示シ平均十六度二ニシテ上層ヨリ低キコト三度八ナリ

第七點 上層最高ハ九月ニシテ二十五度九ヲ最低ハ二月ニシテ十四度五ヲ示シ平均十九度五ナリ。下層最高ハ九月ニシテ二十五度三ヲ最低ハ二月ニシテ十四度六ヲ表ハシ平均十八度ニシテ上層ヨリ一度五低シ

以上各點上層一ヶ年平均温度ニ於テ最高ヲ示セルハ第五點ニシテ二十度五ヲ表ハシ最低ハ第一點ニシテ十八度二ナリ。下層ニアリテハ最高ハ第三點ニシテ十八度ヲ示シ最低ハ第六點ニシテ十六度二ナリ。而シテ各點ヲ通スル上層一ヶ年平均温度ハ十九度四ニシテ下層ハ十七度三ナリ

比重

第一點 上層最高ハ二五九四ニシテ十二月ニ表ハシ最低ハ二四八八ニシテ九月ニ表ハレ平均二五三五

ナリ。下層最高ハ二六〇四ニシテ十二月ニ最低ハ二五一六ニシテ十月ニ表ハシ平均ハ二五五一ナリ

第二點 上層最高ハ二六〇一ニシテ十二月ニ最低ハ二四七六ニシテ九月ニ表ハレ平均二五五二ナリ。下層最高ハ二六〇四ニシテ十二月ニ最低ハ二五一六ニシテ十月ニ表ハレ平均二五五七ナリ

第三點 上層最高ハ二六二九ニシテ十二月ニ最低ハ二四六四ニシテ九月ニ表ハレ平均二五四七ナリ。下層最高ハ二六三四ニシテ十二月ニ最低ハ二五四二ニシテ三月ニ表ハレ平均二五七三ナリ

第四點 上層最高ハ二六一七ニシテ十二月ニ最低ハ二四四六ニシテ九月ニ表ハレ平均二五三九ナリ。下層最高ハ二六二四ニシテ十二月ニ最低ハ二五五三ニシテ一月ニ表ハレ平均二五七九ナリ

第五點 上層最高ハ二六三〇ニシテ十一月ニ最低ハ二四二七ニシテ九月ニ表ハレ平均二五三七ナリ。第六點 上層最高ハ二六二五ニシテ十一月ニ表ハレ最低ハ二四三八ニシテ七月ニ表ハレ平均二五三九

ナリ。下層ノ最高ハ二六五〇ニシテ十二月ニ最低ハ二五五二ニシテ三月ニ表ハレ平均二五八八ナリ

第七點 上層最高ハ二六二二ニシテ十二月ニ最低ハ二四三八ニシテ七月ニ表ハレ平均二五三四ナリ。下層ノ最高ハ二六三四ニシテ十二月ニ最低ハ二四九九ニシテ九月ニ表ハレ平均二五六九ナリ

各點上層一ヶ年平均ニ付テ見ルニ最高ハ第二點ニシテ二五五二ヲ示シ最低ハ第七點ニシテ二五三四ナ



リ。下層平均ニ於テハ最高ハ第七點ニシテ二五八八ヲ示シ最低ハ第一點ニシテ二五五一ヲ示スヲ見タ  
リ。

(口) 豊前海横斷観測

技手 濱 島 琢 三

英彦丸ニ依ル豊前海ノ横斷観測ハ大正五年度ヨリノ繼續事業ニシテ毎月初メ施行シ調査事項モ全ク同  
様ナリ

観測當日一ケ年平均気温ハ二〇、一度ニシテ月別最高気温ハ七月ニ表ハレ二九、二度ヲ示シ最底氣  
温ハ三月ニ表ハレ一〇、〇ヲ示セリ

水 温  
一ケ年平均水温ハ一七、九度ニシテ月別平均水温ハ九月ニ於テ最高ク二六、九度ヲ示シ最底ハ二  
月ニ表ハレ七、五度トス尙各層ノ平均温度ヲ見ルニ上層ニ於テ一九、三度中層ニ於テ一七、四度ニ  
シテ下層モ亦七、四度ヲ示セリ月別最高水温ハ上層ニ於テ八月ノ二七、四度中層ニ於テハ九月ノ二  
六、九度下層ニ於テハ九月二六、四度トシ最底水温ハ各層共二月ニ表ハレ上層ノ七、八度中層ノ  
七、三度下層ニ於テモ亦七、三度ヲ示セリ

今各點平均水温ヲ示セハ

場 所	温 度	場 所	最 度	場 所	比 重	場 所	比 重
第一點	一七、〇	第六點	一七、七	第一點	一、〇四二五	第六點	一、〇四二二
第二點	一七、二	第七點	一七、八	第二點	一、〇四九七	第七點	一、〇四二二
第三點	一七、二	第八點	一七、八	第三點	一、〇四四三	第八點	一、〇四四五
第四點	一七、六	第九點	一七、七	第四點	一、〇四四五	第九點	一、〇四六八
第五點	一七、一	第十點	一七、八	第五點	一、〇四三七	第十點	一、〇四二二

比 重

一ケ年平均比重ハ一、〇二四二八ニシテ月別ニヨル平均量ヲ見ルニ二月ニ於ケル一、〇二五二六最モ  
高ク八月ノ一、〇二二九七最モ底シ此レヲ各層平均比重ヲ見ルニ上層ニ於テ一、〇二四二三中層ニ於テ  
一、〇二四四一下層ニ於テ一、〇二四五一ヲ示シ各層ノ最高比重ハ表層ニ於テ五月ニ於テ表ハレ一、  
〇二五一九ヲ示シ中層下層共ニ二月ニ表ハレ一、〇二五二四及一、〇二五二四ヲ示シ最底比重ハ各層  
共ニ八月ニ表ハレ即チ一、〇二二五二……………一、〇二二九六……………一、〇二三四四ヲ示セリ  
尙各観測點平均比重ハ前表ノ如シ

ブランクトン

一二

毎観測毎ニ表面ニテ測ノ月別平均量ヲ見ルニ三月ニ於ケル一三八、七CC最モ多ク七月ニ於ケル一〇、六CC此レニ次キ五月ニ於ケル一九、一CC最モ少シ尙各點一ヶ年平均ヲ見ルニ第二點(宇ノ嶋沖)ニ於ケル一三三、七CC最モ多ク第七點(箕島沖)九八、四CC此レニ次ク而シテ第十點(本山沖)ニ於ケル五六、五CC最モ少ク昨年度ト殆ト同様ナリ  
本年度ノ漁獲高ハ一般ニ春期ニ好況ヲ程シ殊ニ鯛ニ於テ然リ秋期一般ニ不況ニシテ殊ニ打瀬網漁業ノ赤エビニ於テ然ルヲ見ル

(ハ) 有明海海洋観測

技手 藤 森 三 郎  
助手 海 部 清 利

毎月朔、望兩大潮時ニ於テ沖端川口ヨリ竹崎島間、竹崎島、三池港間ノ横断観測ヲ行ヒテ外洋水侵入勢力ノ消長ヲ調査シ一方干潟面ニ於テ満潮時、三瀧瀉中央、大牟田地先及黒崎地先ヨリ沖合大干潮線迄ノ横断観測ヲ毎月朔、望ノ兩大潮時及上弦、下弦ノ兩小潮時四回施行シ、外洋水ノ干潟面ニ襲來スル狀況ヲ調査セリ、大正八年ニ於ケル概況左ノ如シ

比重

一月ヨリ三月迄ハ比重甚タ低ク三月上旬三池燈臺附近ニ二三、〇〇ノ水ヲ見タル外全部二三、

〇〇以下ヲ示セリ、四月ニ至リ急ニ高キヲ示シ六月中旬迄殆ンド全部二三、〇〇以上ニシテ特ニ四月中旬五月下旬及六月中旬ニ於テハ二四、〇〇以上ノ水ノ侵入ヲ見就中五月下旬ニ於テ最モ強キヲ示セリ、六月下旬梅雨期ニ入り沿岸水強勢トナリテ比重輕減シ六月下旬ヨリ八月上旬迄ハ年間ノ最低時期ニシテ全部二三、〇〇以下ヲ示セリ、八月下旬ニ至リ漸次恢復シ九月以後十二月迄ハ再ヒ高ク特ニ十月上旬及十一月上旬ニ於テ外洋水ノ侵入勢力強烈ナリキ

大正八年竹崎島、三池港間観測結果

水 温		年 最 低	年 最 高
年	最 低	一 月 上 旬	八 月 下 旬
十 三 度 以 下 ノ 月	一 月 一 四 月 上 旬	表 面 八 度 一	表 面 九 度 五
二 十 度 以 上 ノ 月	六 月 中 旬 十 月 上 旬	底 面 二 六 度 五	底 面 二 六 度 〇

比		年 最 高	年 最 低
各 観 測 點 全 部	二 三 〇 〇 以 上 ヲ 示 セ ル 月	四 月 中 旬 (二四、五四)	一 月 上 旬 (二一、〇五)
二 三 〇 〇 以 上 ヲ 示 セ ル 月	十 月 一 十 一 月		

重	平均二三、〇〇以上ヲ示セ ル月	四月―六月及八月―十一月
各觀測點全部	二、三、〇〇以下ヲ示セル月	一月及七月

### 六、鯉兒配布

技手 安西清  
技手 山田宗太郎

淡水養魚事業獎勵普及ノ目的ヲ以テ大正三年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ三潞郡木佐木村侍島淡水養魚場ニ於テ鯉兒及鯉卵ヲ養成シ營業者ノ要求ニ應シ夫々無償配布ヲ行ヒタリ

親鯉ハ前年ヨリ飼育シ來リタル大和種及豫テ本場ニ於テ養成ケ育セルモノヲ以テシ体長一尺一寸ヨリ二尺一寸内外体量百二十匁乃至八百六十匁、年齡四歳乃至九歳余ノモノニシテ雌雄合計二百二十六尾内雌四十八尾雄百七十八尾ナリ

採卵ハ四月二十八日ニ始メ五月五日ニ終リ孵化ハ五月二日ニ始メ八月十一日ニ終了シ前後五回ニ亘リ總數五百七十七萬粒余ヲ得、内三十萬粒ハ卵ニテ配布シ残り五百四十七萬粒余ヲ孵化セシメタルニ稚兒其約五割七分強即三百十四萬尾ヲ得タリ而シテ更ニ之レヲ飼育池ニ移シ体長一寸乃至二寸五分内外マデ養成シテ配布ニ適スル大サニ至レルモノ三十七萬三千九百尾即孵化數ノ約一割三分弱ヲ收得シタリ配布ハ五月三十日ヨリ開始シ九月十三日ニ終了シタルカ總計七十一ヶ所ニシテ之レヲ大別スレハ三潞

山門八女三池大牟田浮羽三井早良福岡鞍手筑紫精屋宗像遠賀企救京都築上ノ二市十五郡ニシテ農會三十九養魚組合二十、學校一、個人十一ナリ

今其概要ヲ表示スレハ左ノ如シ

採卵用親鯉表

採卵回数	親魚數		雌		雄		年	雌	雄
	雌	雄	體長	體量	體長	體量			
第壹回	一三	四〇	最大二尺一寸 最小一尺二寸	八百六十匁	一尺七寸	五百二十匁	七才九才	四才七才	
第貳回	一四	四二	一尺七寸	二百七十匁	一尺四寸	四百六十匁	六才八才	同	
第參回	七	三五	一尺八寸	三百七十匁	一尺三寸	三百三十匁	同	同	
第四回	六	二四	一尺六寸	三百七十匁	一尺三寸	四百八十匁	同	同	
第五回	八	三二	一尺五寸	三百八十匁	一尺四寸	四百三十匁	同	同	
計	四八 二二六	一七八							

産卵孵化表

採卵回数	産卵期	採卵数	孵化時	孵化数	孵化率
第壹回	至自四月二十八日 同二十九日	一・八九〇・〇〇〇	至自五月四日 同二日	一・〇七〇・〇〇〇	五割七分
第貳回	至自五月十八日 同十九日	一・三四四・〇〇〇	至自五月二十一日 同二十二日	七二〇・〇〇〇	五割三分
第參回	至自六月十五日 同十七日	九六九・〇〇〇	至自六月二十三日 同二十一日	六七八・三〇〇	七割
第四回	至自七月十五日 同十六日	七八〇・〇〇〇	至自七月二十二日 同二十三日	二八八・〇〇〇	三・〇〇〇〇萬配布 六割
第五回	至自八月三日 同五日	七八七・五〇〇	至自八月十一日 同日	三九三・七〇〇	五割
計		五・七七〇・五〇〇		三・一四〇・〇〇〇	五割七分

雌親魚一尾當リ卵兒收得表

回数	使用雌親魚數	産卵数		孵化兒數	
		總數	親魚一尾當リ	總數	親魚一尾當リ
第壹回	一三	一・八九〇・〇〇〇	一四五・三八〇	一・〇七〇・〇〇〇	八二・三〇七
第貳回	一四	一・三四四・〇〇〇	九六〇・〇〇〇	七二〇・〇〇〇	五〇・七一四

第參回	第四回	第五回	計及平均
七	六	八	四八
九六九・〇〇〇	四八〇・〇〇〇	七八七・五〇〇	五・七七〇・五〇〇
一三八・四二八	八〇・〇〇〇	九八・四八五	一二二・一八八
六七八・〇〇〇	二八八・〇〇〇	三九三・七〇〇	三・一四〇・〇〇〇
九六・八五〇	四八・〇〇〇	四八・九三七	六二・八三一
			三七三・九〇〇
			七・七九〇

配布郡別表

郡名	農會	配布ヲ受ケタル者ノ名稱及個數	農會	養魚組合	學	校	個數	人	配布數
三 緒	九	六	一	一	一	一	一	一五二・〇〇〇	
山 門	二	一三						八八・〇〇〇	
八 女	七	一						三〇・八〇〇	
三 池	二							二七・〇〇〇	
大 田	一							六・〇〇〇	
早 眞	一							三・〇〇〇	
鞍 手	一							三・八〇〇	
企 教	四							一〇〇・〇〇〇	
								七・五〇〇	
								〇〇〇	

計	精屋	三井	榮上	京都	筑紫	福岡	遠賀	浮羽	宗像	鯉卵
三九			九		一		二	一		一
二〇										二〇〇,〇〇〇
七										一〇〇,〇〇〇
										六,〇〇〇
										二二,〇〇〇
										一〇,〇〇〇
										一〇,〇〇〇
										一三,五〇〇
										一〇,〇〇〇
										一〇,〇〇〇
										一,五〇〇
										八〇〇
										三七三,九〇〇

### 七、公魚移植試験

技手 安 西 清

#### 移植ノ趣旨

本縣ニ於ケル淡水區域ハ極メテ廣漠ナルモノアルニ拘ラス之レヲ人爲的ニ利用スルニ適當ナル魚族ハ鯉鮒其他一、二種ニ過キササルヲ以テ更ニ新魚種ノ増殖ヲ計ル事ヲ得バ其利少カラサル可キヲ思ヒ茨城縣霞ケ浦産ノ公魚ヲ移植シ縣内ノ溜池、堀ノ如キ温水區域ニ於テヨク發育スルヤ否ニ付キ豫備試験ヲ行ヒタリ

#### 運搬及發育經過

大正八年二月二十一日茨城縣新活郡佐賀村志戸崎孵化場ニ於テ採探セル魚卵十五梓百二十萬粒(一梓八萬付)余ヲ同日荷造發送シ二十六日博多驛ニ到着シタルハ翌二十七日即採卵後七日目ニ三浦郡木佐木村侍島淡水養魚場内養鯉池ノ一部及侍島(西丸)灌溉用水堀並ニ同郡西牟田村大字彌田清導寺上堤ノ三ヶ所ニ分養シタリ而シテ此時卵ヲ檢セシニ三割余ノ死卵ヲ見タリ

養鯉池飼育 池ノ面積五十坪水深二尺余ニシテ之レニ三梓約二十四萬粒ヲ放養シタルカ三月五日發眼ヲ認メ同八日ニ終リ其數全卵數ノ五割内外ナリ、而シテ三月十五日ニ至リテ孵化ヲ初メ三月三十一日ニ終リ卵數ノ約三割七萬尾余孵出シタルカ如シ、孵化後夏期ニ於テハ水深淺ケレハ水温ノ極度ニ上昇スルヲ恐レ池ノ三分ノ一余菱ヲ移植シテ之レヲ防止シ十一月九日迄二百二十三日間飼育シタル後採捕シタルニ總數十四尾ヲ得長最大三寸二分、最小二寸八分、平均三寸、重量最大二匁、平均一匁五分ニ成長シ概シテ魚ノ肥大鮮麗ナルヲ見タリ、而シテ之レ等ノ大部分ハ更ニ堀中ニ放養シタリ

清導寺上堤飼育 面積六反六畝、水深最深部十四五尺余ニシテ赤粘土質ヲ帶ブ、七梓五十六萬粒余ヲ放養シタルニ三月五日ヨリ七日マテニ發眼シ約七割ヲ示シ、三月十二日ヨリ三月二十六日ニ亘リヲ孵化シ其數約六割三十三萬尾余ナルカ如シ

之レヲ大正九年三月五日即三百四十四日ノ後採捕シタルニ三百四十八尾成育セルヲ見、體長最大三寸一分最小二寸七分平均二寸八分余體量平均一匁ニシテ養魚池ノモノヨリ稍々瘠小ナリ。此ノ中三百四

十尾ハ天然繁殖ヲ期シテ再ヒ清導寺下堤面積一町六反ニ放養シタリ  
 用水堀飼育 面積約五畝、水深五尺余ニシテ五梓四十萬粒ヲ放養シタルニ三月四日ヨリ三月六日迄  
 ニ發眼シ約六割ヲ示シ、三月十一日ヨリ三月二十八日ニ亘リテ孵化シ約四割十六萬尾余解出シタルモ  
 ノ、如シ、同所ハ用水關係上未タ採捕スルニ至ラス  
 前項記載セルトコロヲ更ニ摘載表示スレハ左ノ如シ

- イ、移殖總卵數 百二十萬粒、十五梓、一梓八萬付
- ロ、採卵及發送期日 大正八年二月二十一日
- ハ、博多驛着及放養期日 同 二月二十六日。二十七日(採卵後七日目)
- ニ、到着時死卵數 三割余
- ホ、孵化數 約五十六萬尾(四割六分強)
- ヘ、發育成魚數 三百六十二尾(三ヶ所ノ中ニヶ所分)
- ト、放養孵化表

池ノ符號	放養池	同上面積	同上水深	放養數	發眼		孵化	
					月日	割合	月日	割合
甲	養鯉池	五〇坪	二尺	三梓 二十四萬粒	三月五日 八日	五割	三月十五日 三十一日	三割
乙	清道寺堤	一九八〇坪	十四五尺	七梓 五十六萬粒	三月五日 七日	七割	三月十二日 二十六日	六割
丙	用水堀	一五〇坪	五尺	五梓 四十萬粒	三月四日 六日	六割	三月二十一日 二十八日	四割
								尾數
								七萬尾余
								十六萬尾余
								三十三萬尾余

採取成長表

池ノ符號	採取池	採取月日及飼育期間	採取尾數	體長			體量		
				最大	最小	平均	最大	最小	平均
甲	養鯉池	八年十一月九日 至 二十三日間	十四尾	三寸二分	二寸八分	三寸	二匁	一匁五分	一匁
乙	清道寺堤	九年十二月五日 至 三十四日間	三百四十八尾	三寸一分	二寸七分	二寸八分余	一匁	一匁	一匁
丙	用水堀	未採取							

斯ノ如ク公魚ハ本縣内溜池其他ニ於テモ充分ナル注意ノ許ニ飼育スレハ相當發育成長シテ繁殖ノ見込有ルヲ知リタリ

附加

親魚及運搬費 前項採卵ニ使用シタル親魚ハ雌雄合計百七十三尾内雌二百八十六尾雄約五倍千四百五十尾ニシテ雌魚一尾ヨリノ採卵數ハ約四千九百粒ナリシト云フ

移殖卵ノ荷作運搬賃其他之レニ要セシ費左ノ如シ

金拾貳圓八拾錢

内

名稱	員數	單價	金額	摘要
解化梓	十五個	〇、〇八〇	一、二〇〇	
運搬箱	一個		二、二〇〇	
晒木綿	一反		一、二〇〇	
荷作用水苔	八百匁	百匁ニ付 〇、一〇〇	〇、八〇〇	
繩	二把	〇、〇五〇	〇、一〇〇	
人夫賃	五日分	〇、八〇〇	〇、四〇〇	
運賃	箱一箱		三、五〇〇	土浦驛ヨリ木佐木停留所間汽車及軌道代

### 八、有明海干潟利用試験

(1) 住ノ江牡蠣養殖試験

技手 藤森三郎  
助手 海部清利

(イ) 大正八年夏季暴風浪ニ基ク牡蠣被害状況

有明海ニ於テハ去ル大正三年八月二十五日大潮時ニ於テ南東風猛烈ニシテ高潮ヲ伴ヒ沿岸堤防ノ欠壞セルモノ甚タ多ク、養殖貝類ノ飛散埋没斃死スルモノ夥シク就中養殖牡蠣ノ被害激甚ナリシカ大正八年八月中旬、復タ颶風ノ襲來アリテ被害少カラサリキ。今其概況ヲ記サンニ八月十五日夜半ヨリ北東ノ風強烈ニシテ翌十六日午前十時南東ノ颶風ニ變シ、時恰モ大潮ノ満潮時ニ際シタル爲メ著シク高潮トナリ、午後二時暴風浪強烈ノ頂點ヲ示シ翌十七日ニ至リ漸ク靜隱ニ歸セリ此ノ強風浪ノ爲メ各種貝類ノ飛散シ或ハ泥土ニ埋没セシメラル、モノ多ク殊ニ養殖牡蠣ニ於テ被害最モ甚シク何レモ殆ント八、九分通り飛散シ或ハ斃死スルニ至レリ、又大川、冲端川等ニ於ケル落際ニ建込ミアル牡蠣簇ノ流失モ夥シク場所ニヨリテハ殆ント全部ノ流失ヲ見タリ

(ロ) 大正八年三月蒔付貝採取試験

大正八年三月山門郡兩開村地先養殖場へ種貝平均殻長一寸七分七厘体重一匁九分ノモノ總計二百二十樽(一樽三十七斤、一千七百五十個入り)ヲ蒔付ケタルカ、前記ノ如ク八月十五日ヨリ十六日ニ至ル暴風ノ爲メ、殆ント九分通り飛散セシメラレ大正九年三月調査ノ際殻長三寸六分七厘、巾二寸八分、体重四十二匁ニ成長セルモノ總計四千二百斤ヲ得タルノミナリキ

(ハ) 種貝採取試験

(甲) 樫及竹筴使用種貝採收試験

沖端川落筋ニ於テ引キ續キ大正二年、三年、四年及六年ニ建込ミタル樫及竹筴ニ付、種貝ノ着生量ヲ調査セリ六月下旬種苗ノ着生ヲ見タルモ七月上旬大降雨出水ノ爲メ比重激變シテ著シク輕減セル爲メ全部死滅シタリ(被害狀況ハ次項ト同様ナリ)而シテ其後八月中旬ノ大暴風ノ爲メ筴ハ殆ント全部埋没又ハ流失シ遂ニ不結果ニ終レリ

(乙) 住ノ江牡蠣ノ發生條件及瀕面上ニ於ケル種貝採取試験

昨年度調査ノ結果有明海ニ於テ普通大形ニ生長スル住ノ江牡蠣即チ「うじがき」又ハ「ひらがき」ト稱スルモノト、体形著シク萎縮セル通稱「しがめ」又ハ「しわがき」ト稱スルモノトハ元來同一ノ種類ナレ共、着生後干出時間ノ長キニ基ク乾燥等ノ生活條件ノ相違ニ依リ一見別種ナルカノ如キ形体ヲ呈スルモノニシテ即チ大干潮線ヨリ地盤ノ高サ五尺迄ハ「うじがき」トナリ、五尺以上十二尺乃至十三尺迄ノモノハ「しがめ」トナルモノトス、依テ此發生條件ニ適合スベキ方法ヲ施サハ、すみゑがき種貝ハ現今ノ如ク獨リ落筋ノミナラス瀕面上ニ於テモ採取シ得ヘキモノナルヲ明カニシ得タルヲ以テ其大要ヲ前年度報告書ニ記述セルカ、大正八年度ニ於テハ此理ニ基キ引ッ、キ瀕面上ニ於ケル採苗試験ヲ行ヘリ

(一) 試験方法

(イ) 試験ノ場所

三浦郡地先干瀉ニ於テ沿岸ヨリ沖端川落迄七百六十間ノ間ヲ左ノ各點ニ分チ附着器ノ建設ヲナセリ

地 點	沿岸ヨリノ距離	大干潮線ヲ基準トシタル地盤ノ高サ
第一點	〇間	一四尺一寸
第二點	七二間	一二尺七寸五分
第三點	一五〇間	一一尺五寸
第四點	二三〇間	一〇尺一寸
第五點	三一〇間	八尺八寸
第六點	四〇〇間	七尺八寸
第七點	四九一間	七尺三寸
第八點	五六〇間	六尺九寸
第九點	六七〇間	六尺三寸
第十點	七六五間	四尺五寸
第十一點	七八〇間	〇尺〇寸



(ロ) 附着器

大要左記各種ノ附着器ヲ建設ス

- 1、桎篋ヲ瀉面上ニ其ノ儘真直ニ建込ム
- 2、瀉面上ニ水溜リヲ造リ此ノ中ニ前記篋ヲ建込ム
- 3、瀉面上ニ水溜ヲ設置シ此中ニ附着器ヲ建込ム
- 4、屋根ヲ施シテ日光ノ直射ヲ遮リ此中ニ建込ム
- 5、落際ニ建込ミ牡蠣種貝ノ附着セル篋ヲ瀉面上ニ移殖シ其結果ヲ調査ス

(二) 牡蠣産卵状況

牡蠣産卵ノ正確ナル期節ヲ知ランカ爲メ一方附着器ニ牡蠣種苗ノ着生スル状況ヲ調査シ一方解剖的方面ヨリ産卵状況ヲ調査シタルカ右ノ結果ヨリ大正八年ニ於ケル牡蠣産卵状況ヲ述フレハ左ノ如シ

(イ) 種苗ノ附着状況

三瀨郡第十點ニ五月下旬以來毎日瓦附着器ヲ装置シテ種貝附着ノ状況ヲ調査シタルカ種苗ノ附着ヲ初メテ肉眼ニテ認メタルハ六月十四日ニシテ之ニヨレハ本年産卵ヲ初メタルハ六月上旬ト推定セラル、種苗ノ盛ニ附着ヲ見タルハ六月二十日頃ヨリ三十日迄ニシテ此期間ニ大部分産卵ヲ終レルモノ、如シ、然ルニ七月一日ヨリ七日迄連日ノ降雨ニテ各河川ノ出水夥シク爲メニ比重著シク低下シ沿岸ハ殆

ント淡水化シタルガ此爲メ種貝ハ全部死滅シタリ、今産卵期中四ツ山ニ於ケル大正七年及八年ノ雨量ヲ比較スルニ左ノ如シ

七								六			月	
八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日	下旬	中旬	上旬	大正八年	大正七年
1	684	57	141	90	490	151	940	489	1233	603	333	346
1	1	530	200	176	200	146	4	672	2371	346	6	6

月 八			月 七			月 六			月 五				
十八日	十一日	五日	廿七日	廿一日	十二日	廿八日	二十日	十四日	廿九日	二十二日	十四日	七日	一日
廿三日(小)	十六日(大)	十日(小)	一日(大)	廿四日(小)	十五日(大)	一日(大)	廿三日(小)	十七日(大)	一日(大)	廿三日(小)	十五日(大)	八日(小)	二日(大)
二八、六	二八、二	二八、九	二八、八	二九、六		二四、三	二五、〇	二三、四	二二、四	一九、三	二一、五	一七、八	
二六、六	二七、六	二八、八	二八、二	二九、五		二四、三	二四、八	二三、二	二二、〇	一九、二	二一、〇	一七、八	
一八、三四	二〇、八一	五、四〇	一八、〇六	一八、〇六	三、九〇	一八、八〇	一七、六九	八、二七	二二、九五	一九、五五	二〇、六三	二二、一〇	
一九、一一	二二、一六	一九、一八	一九、五一	一九、五一	二〇、〇六	九、六二	一九、〇五	一七、〇三	二二、二一	一九、九三	二一、二九	二二、五〇	

七月二日ヨリ七日迄降雨ニテ比重輕減(稚貝全滅)シタルモ欠測シタルヲ遺録トス

比重及水温(大正八年)  
産卵期前後第十點ニ於ケル満潮時ノ観測結果ヲ摘録スレハ左ノ如シ

月	日	表水	底水	表温	底温	表比	底比	表重	底重
八月	八日(小潮)	一八、九	一八、三	一八、三	一六、〇六	一九、六九	一九、六九	二一、五二	二〇、四〇
八月	十六日(大潮)	一四、七	一四、七	一四、七	二〇、九〇	二一、五二	二一、五二	二一、五二	二〇、四〇
八月	廿三日(小潮)	一八、七	一七、五	一七、五	一九、一〇	一九、一〇	一九、一〇	一九、一〇	二〇、四〇

月 八			月				
下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬計	十日	九日
四	四一	六九	一九	九五	二五八	三六	一
二	五	六	六	五	三	六	
三六	八六	三五	四〇	九五	一五二	二五	一

九	廿五日	一日(大)	二八、〇	二七、五	二二、四九	二二、八五
二	九日(小)	二九、三	二八、八	一九、九七	二一、五〇	
十	十七日(大)	二六、七	二六、六	一一、六〇	二〇、六九	

三〇

而シテ大雨後牡蠣親貝ニハ尙殘存卵多少ヲ有セルモ大雨後約十日間ハ種苗ノ着生ヲ見ス然ルニ七月十日ニ至リ點々稚貝ノ着生ヲ見ルニ至リ其ノ後八月十四日迄點々着生ノ狀況ヲ繼續セリ然ルニ八月十五日投入セシ瓦ニハ着生ヲ見スシテ産卵ノ終期ナルカラ疑ハシメタルカ突然八月二十八日頃ニ至リ稚貝再ヒ着生シ初メ九月五日頃迄ニ可ナリ多量ニ附着シタリ而シテ其ノ後ハ着生ヲ見サリキ斯クノ如ク遅レテ稚貝ノ着生アリシハ稀有ノ現象トス

(ロ) 解剖上ノ研究

牡蠣生殖腺ハ五月下旬ニ於テ成熟ノ極ニ達シ六月上旬ヨリ放卵ヲ始メ下旬(三十日)調査ノ際ハ既ニ八、九分通り産卵ヲ了リ僅カニ殘存ヲ見タルノミ即チ産卵ノ盛期ハ六月中旬ヨリ下旬ニ至ル間ニシテ前記種苗ノ附着狀況ト相一致セルヲ見ル而シテ此殘存卵ハ七月ヨリ八月中旬頃迄ハ殆ント産出ヲ休止シ全月末ニ至リ全部産卵ヲ終レリ例年牡蠣ノ産卵ハ六月中旬ヨリ七月中旬迄ナリ若シ大正八年ニ於テ周圍ノ狀況良好ナリシトセハ六月下旬ニ於テ多少殘存セル卵ハ放出ヲ續ケ七月中旬頃迄ニハ全部産出ヲ終リタルモノナルハキモ前述ノ如ク比重低下シ不適當ノ状態トナレル爲メ中止シ其ノ後七月中旬ヨ

リ八月ニカケテノ比重狀況ハ産卵ニ適當セル状態ニ回復シタレトモ猶放卵セサルモノ多ク漸ク八月下旬ニ至リ全部放卵セルモノト見ラルヘタ、コハ牡蠣ノ生理研究上趣味アル事實ト思考セラル

三 潟面上ニ於ケル各種附着器ニ對スル稚貝附着狀況

前述ノ如ク稚貝着生間モナク全滅シタル爲メ豫期ノ結果ヲ見ル上ニ於テ遺憾少カラサレ共左ニ經過ノ大要ヲ記述スヘシ

(イ) 椋築ヲ潟面上及潟面上ノ水溜中ニ建設シタルモノ

五月中旬第一點ヨリ第十一點迄各地點ニ兩者ノ設備ヲ施ス椋ハ經一寸長四尺ニシテ潟面上二尺五寸ヲ出シ水溜ノ深サハ五寸トス、六月十四日第十一點ヨリ第六點迄種苗ノ着生ヲ認め六月二十日第四點迄着生シ六月二十九日第三點ニ着生シ第二點以上ハ遂ニ着生ヲ認めサリキ而シテ水溜リノ内ニ建込ミタル椋ハ水溜中ニハ密ニ着生シ上部ハ水溜ニ接シタル部分比較的多ク共三寸以上ニハ點在セルノミ又潟面上ニ其ノ儘建込ミタルモノハ潟面ニ接シタル部分約一二寸ノ間ニハ多少着生多ク夫レヨリ上部ニハ散在セリ而シテ添筋ニ建込ミタル椋ニハ全部着生ヲ見タリ。然ルニ之等ハ前記ノ如ク七月上旬降雨ノ爲メ比重輕減シ何レモ全部死滅シタリ。其ノ後七月中旬ヨリ八月中旬迄ハ稀ニ點々着生ヲ見タルノミナリシカ八月二十八日ニ至リ第五點迄再ヒ可ナリ多量ニ種苗ノ着生ヲ見タリ、而シテ之等ノ椋ハ八月中旬大暴風高潮ノ爲メ潟面一帯ニ表層上

約五寸ヲ拂ヒ除ケラレ篋ノ根元ニ自ラ新ニ水溜リヲ造レルカ今回ノ稚貝ハ此水溜リ内ニ附着シ而シテ以前六月下旬ニ於テ水溜リトナリ届リ當時此ノ部ニ多數着生シ間モナク死滅セル區域トノ中間ハ極メテ點々着生ヲ見タルノミニシテ此ノ三者ハ明瞭ナル線ヲ以テ區分セラレタリ、然レ共八月末産卵セラレタル此ノ稚貝ハ其ノ後ノ成長遅緩ニシテ水溜リ中ノモノ九年二月漸ク殻長一寸内外ニ達セルノミナリシモ其形狀所謂「うじがき」ニシテ水溜面ヨリ上部ノモノハ五分内外ニテ萎縮シしわがきノ形貌ヲ呈セリ、要スルニ牡蠣種貝ハ潟面上ニテモ水溜内ニハ着生多ク且ツ生長良好ニシテ干出面ハ附着甚ク少ク且ツ萎縮シ生長極メテ不良ナルニ至ル

(ロ) 潟面上ニ水槽ヲ設置シ此内ニ附着器ヲ建込ミタルモノ  
 一、水甕(經一尺二寸高二尺)ヲ建設セルモノ

六月十二日第六點及第九點ニ設置シ此ノ内ニ桎篋(經一寸長四尺)ヲ十本建テ置キタリ、甕内ハ干潮時ニ於テモ常ニ海水ヲ滿テリ水ノ交換不良ナル爲メニヤ稚貝ノ着生稍々遅レ七月十六日ニ至リ附着ヲ見タリ、而シテ甕内溜水面迄ハ着生多カリシモ露出部ニハ極メテ稀ニ附着セルノミ而シテ貝ノ生長ハ本年二月十七日調査ニ於テ水面以下ノモノハ殻長二寸内外トナリ水溜リ以上ノモノハ一寸以下ニシテ萎縮シ明カニしがめトナレリ

2、箱ヲ設置シタルモノ

松板ニテ六尺平方深サ四尺ノ箱ヲ造リ潟中へ一尺五寸ヲ挿入シ四方ニ杭ヲ打テテ定置シタルモノニシテ六月十七日第九點ニ設置シ此ノ中ニ瓦、土管及桎篋ヲ建込ミタリ箱ハ干潮時水深一尺五寸ヲ保テリ種苗ノ着生ヲ見タルハ七月十九日ナリシモ僅少ニシテ、じめきの着生夥シク遂ニ好結果ヲ見ル能ハサリシモ干潮時水溜リ以下ハ着生多ク且ツ生長良好ニシテ夫レ以上ニハ着生少ク且ツ生長不良ニシテ萎縮セル事前項水甕ノ場合ト同様ナリ、而シテ箱四圍ノ板及杭ニ於テモ水面以下ト以上トニ於テハ明瞭ニ此ノ差ヲ見ルヲ得タリ

(ハ) 覆ヲナシ日光ノ直射ヲ遮レルモノ  
 四方ニ杭ヲ打テ上面ニ横木ヲ渡シ潟面上高サ三尺トシ天上ハ經一寸ノ竹ヲ成ルベク密ニ打テ尙天上周圍ヨリ巾一尺二寸ノ「カンバス」ヲ四方ニ圍ラシテ日光ノ直射ヲ遮リ此ノ中ニ桎篋及瓦篋ヲ建設セルモノニシテ五月十九日第六點及第九點ニ建設セリ、六月十四日ニ至リ稚貝ノ附着ヲ認メタルガ兩所共潟面上ニ接シタル約二三寸ノ部分ニ附着密ニシテ上部ニ疎ナル傾向ハ有セシモ直接潟面上ニ建込ミタルモノニ比シテ遙カニ多量ナリキ、然レ共七月上旬比重輕減ノ爲メ全部死滅シ次テ八月中旬大暴風高潮ノ爲メ本設備ヲ全ク破壊セラレ遂ニ明瞭ナル結果ヲ見ル能ハサリキ

(ニ) 潟面上ニ自然ニ水溜リヲ造ル様竹篋ヲ建込ミタルモノ  
 第六點及第八點ニ丸竹(經一寸、長四尺)ヲ一坪ニ付キ三十本ノ割ニテ十坪宛建込ヲ行ヒタリ、六月中

勿稚貝附着シタルモ其ノ後七月上旬ニ於テ全部死滅セリ、其ノ後八月下旬ニ至リ再ヒ着生ヲ見タリ、而シテ上部ニハ附着甚タ稀ナレ共海面上約三寸迄ノ間ニハ相當附着アリ、從來ノ例ニヨレハ此ノモノ大正九年十二月頃ニ至ラハ殻長三寸内外ノ大サニ生長スヘキ見込ミナリ

(ホ) 海面上ニ移植セルモノ

六月ニ着生セルモノハ前記ノ如ク全部死滅セル爲メ八月下旬ニ至リ着生セルモノヲ海面上ノ各點ニ移植シ其變化ノ狀況ヲ調査シタリ然レ共着生數僅少ナリシ上じめきノ着生多ク爲ニ著シキ結果ヲ見ル能ハサリキ

〔四〕 大正七年海面上ノ水溜中ニ建設セル筵ノ附着狀況

大正八年建設ノ筵ハ上記ノ如ク稚貝死滅ノ爲メ著シキ結果ヲ見ル能ハサリシカ、同一地點ニ水溜リヲ造リ大正七年五月建設セル筵ニ就テハ昨年度報告セル如ク當時明瞭ニ住江牡蠣及「しがめ」ノ別ヲ見タルカ右ヲ本年一月調査セル結果左ノ如シ

築建位	地盤ノ高サ	海面上水深ノ深サ	牡蠣附着狀況	ウシガキ數	附着層ノ長	大サ	數	附着層ノ長
置番號	一二・七五	二・六	水溜以內水溜面上	一	一	一	一	一
第二點	一一・五	二・六	ウシガキ	四	六	一	一	一
第三點	一〇・一	一・九	ウシガキ	五	六	八	分	二
第四點		一・九	ウシガキ	五	六	八	分	二

第五點	八・八	二・五	同	五	七	八	分	一
第六點	七・八	三・〇	同	五	七	六	分	一
第七點	七・三	二・三	同	五	七	六	分	一
第八點	六・九	一・五	同	七	四	一	寸	五
第九點	六・三	二・八	同	四	三	一	寸五分	一
第十點	四・五	一・九	同	一〇	一	一	寸五分	二

即チ下部水溜リ中ノモノハ何レモ大形ナル「うじがき」トナリ水溜面以上ノモノハ何レモ「しがめ」トナルヲ明カニ見ルヲ得可シ

〔五〕 大正七年海面上ニ建設セル筵ノ附着狀況

海面上ニ其ノ儘築建込ミヲ行ヒ置クモ潮流ノ爲メ基部三四寸ハ………狀ニ堀レテ水溜リヲ形成スルヲ常トス大正七年五月前述セル第一點乃至第十點迄ニ竹(徑一寸長四尺)ヲ地下一尺五寸挿入シテ一點ニ付キ四十本築建込ミタルニ基部ニ水溜ヲ形成シ此ノ部分ニうじがきノ着生アリタルカ其ノ儘トナシ置キ大正九年二月中旬採取セルニ左ノ如キ結果ヲ示セリ

築建位	地盤ノ高サ	竹ノ種類	築數量	面積	牡蠣數	收穫量	一本ニ對スル收穫高	一個平均重量
第六點	七・八	竹(徑一寸地上ノ長サ二尺五寸)	四十本	一坪	二八個	七七〇匁	三本ニテ	二七・五

第七點	七・三	同	同	同	二九個	七二〇匁	三本ニテ 二個	二五・〇
第八點	六・九	同	同	同	二九〇個	九貫〇〇匁	一本ニテ 七個余	三一・〇
第九點	六・三	同	同	同	二〇一個	五貫六八〇匁	同 五個余	二八・二
第十點	四・五	同	同	同	一七〇個	四貫六四〇匁	同 四個余	二七・三

而シテ五點以上ニハ極メテ僅カニ附着シタルノミニテ今回採取ノ際ハ埋没又ハ散亂等ノ爲メ得ル所ナカリキ六點及七點ハ成績不良ナリシモ第八點以下十點迄ハ收穫多カリキ而シテ前記ハ種貝着生後何等ノ手入れモ施サス放置シタル結果ニシテ若シ相當手入レヲ爲シ土中ニ埋没シテ斃死スルコトヲ防カハ收納量更ニ多カルヘシ而シテ之レ等ハ養殖場ニ移サス其ノ儘自然潟面上ニ落チ生育スルニ委セタルニ係ラス貝ノ生長ハ相當ナルヲ見ルヘク又各地點ニ於ケル貝ノ生長ニ大差ナキ事ヲモ知ルヘシ、要スルニ潟面上ニ於テ竹又ハ樅葉ヲ用ヒ一尺内外ノ間隔ヲ以テ建込ム時ハ潮流ニヨリ自然ニ水溜リヲ造リ此ノ中ニ牡蠣種苗附着スルヲ以テ之ヲ其ノ儘置キテ翌々年一、二月頃ニナレハ適當ノ大サニ生長シ收納スルヲ得、斯クシテ相當有利ナル事業トシテ經營シ得ヘキカ如ク而シテ地盤ノ高サ少クトモ七尺迄ハ此方法ニヨリ採取ヲ得ルカ如シ 但シ經濟的ナル簍及水溜リヲ造リ得ル如キ建方ハ尙研究ヲ要スルモノアリ

〔六〕 摘 要

大正七年及八年ニ於テ得タル結果ヲ摘録スレハ左ノ如シ

(1) 普通「うじがき」又ハ「ひらがき」ト稱スルモノト「しがめ」又ハ「しわがき」ト稱スルモノトハ元來同一種類ノ住江牡蠣ナリ

(2) 住江牡蠣發生ニ適スル比重ハ産卵期タル六、七月頃ニ於テ最高限度二二、〇〇ニシテ二一、〇〇以下ヲ普通トシ最低ハ未タ明カナラサレ共約五、〇〇位ナラン、而シテ好適比重ハ一八、〇〇乃至一五、〇〇内外ナリ

(3) 住江牡蠣ノ着生ハ海水比重適當ノ地帯ニ於テハ地盤ノ干出ハ之ヲ必要ノ條件トセス、而シテ上方ハ大潮ヨリ約十二尺迄ノ附着層ヲ有ス

(4) 大潮線ヨリ五尺即チ中潮時ノ干潮線以下ノモノハ「うじがき」一名「ひらがき」トナル

(5) 五尺以上十二尺迄ノモノハ干燥強過クル關係上萎縮シテ所謂「しがめ」トナル而シテ高キニ從ヒ附着少ク且ツ萎縮ノ度強シ

(6) 牡蠣種貝附着ニ適當スル比重ノ範圍内ニ於テハ落ハ何レモ五尺以下ニシテ干潟面ハ總ヘテ五尺以上ヲ示ス、是從來種場ノ落筋ニノミ限ラレタル所以ナリ

(7) 潟面上ニ於テモ干燥ヲ防ク装置ニヨリうじがき種貝ノ採取ヲ得

(8) 前記ノ方法トシテ潟面上ニ彼「クレール」又ハ「パーク」ノ如キモノヲ造ラハ良好ナルヘケレ共風波

ノ關係上有明海ニ於テハ困難ナルカ如シ、依テ差當リ簡易ナル方法トシテ海面上ニ從來ノ樅又ハ竹  
 筵ヲ長サ二尺五寸位トシ地中一尺五寸位ヲ挿入シテ水溜リヲ造リ得ル如ク建込ム時ハ種牡蠣ハ水溜  
 内ニ附着スルヲ以テ其ノ儘翌々年迄其ノ場所ニ於テ養育セハ相當有利事業トシテ經營シ得ヘキカ如  
 シ、猶附着器ノ種類、建設方法等ニ就テハ研究ノ餘地アリ、適當ナル方法ヲ案出セハ、牡蠣種貝ハ  
 海面一帯少ク共地盤ノ高サ約八尺迄ハ採取スルコトヲ得ヘシ

(2) みろく貝養殖試験

(1) 大正七年蔴付貝採收成績

大正七年八月下旬山門郡兩開村地先ニ蔴付シタル彌貝ハ前記八年八月中旬ノ大暴風ノ爲メ被害ヲ受  
 ケタルモ牡蠣ノ如ク甚シカラサリキ、大正九年三月採取セル結果左ノ如シ

面積		付		採取		増量率	
殼長	體重	殼長	體重	殼長	體重	殼長	體重
三八〇坪	一匁七	二八〇	五 匁	一九石一寸六二	八匁六	六〇個	六 匁五
							二四石七七
							二匁八
							一倍三

(ロ) 大正八年種貝蔴付試験

大正八年九月十三日中島川尻ニ發生セル種貝殼長平均一寸四分七厘、體重六匁一匁百八十個入ノモノ  
 總量十二石四斗五升ヲ採取シ山門郡兩開村地先養殖場ニ坪四升蔴百坪、坪八升蔴百五坪ノ蔴付ヲ行ヒ

タリ

(ハ) みろく種貝採苗試験

(一) 附着器ノ種類及建設方法

大正八年ニハ附着器トシテ長サ四尺ノ技付女竹及經一寸長四尺ノ九竹ヲ用ヒ女竹ハ之ヲ海面ニ一尺五  
 寸ヲ挿入シテ約六十度ノ角度ヲ以テ斜立トシ九竹ハ眞直ニ土中二尺七寸ヲ挿入セリ

(二) 建設地並數量及時期

大正八年四月三十日西ノ洲地盤ノ高サ二尺ノ點及さかて地盤ノ高サ二尺及四尺並七ツ羽瀬三尺ノ地點  
 ニ女竹二百本及九竹四百本ヲ一尺ノ間隔ヲ置キテ建設シ更ニ十月九日ヨリ十二日迄ノ間ニ建込ミタル  
 海苔蔴ニ就キみろく種苗着生狀況ヲ調査セリ

(三) みろく貝産卵狀況

生殖素ハ五月中旬迄ハ成熟セス、六月一日調査ノ際ハ多少成熟卵アルヲ認メタルカ、全月中旬ニハ成  
 熟セルモノ多ク下旬ニハ全部成熟シ七月上旬ヨリ八月中旬迄ニ大部分放卵セリ、以後九月二十六日調  
 査迄ハ微量ヲ有セシモ十月二十六日調査ノ際ハ生殖素ヲ認メス之ハ吸收セラレシカ或ハ放出セラレタ  
 ルカ不明ナリシカ十月中旬建込ノ蔴ニ稚貝ノ着生セシ事實ヨリ見ル時ハ十月産卵セラレタルモノト云  
 フヲ得

(四) 試驗ノ結果

八月十六日高潮大暴風ニテ有明海一帯被害激甚ナリシカ四月建込ノ附着器ハ全部流失セシメラレ遂ニ不結果ニ終レリ然ルニ十月九日ヨリ十二日ニ亘リ地先一帯ニ建テ込ミタル海苔養殖ニ付キ十二月十七日調査セルニ左ノ如クみろく種貝ノ着生ヲ認メタリ

場所	大干潮線ヨリノ地盤ノ高さ	みろく種貝ノ附着層	殻	長	附着個數	附着狀況
大牟田川	三・七	地面	八厘	四個	地面深ノ根元ニ附着	
零杭附近	四・一	地面上三尺迄	三厘—四厘	二個	地面ニ一個・三尺ノ點ニ一個	
銀水村沖	三・〇	一尺八寸ノ點	三厘	一個	一尺八寸ノ點ニ一個	
同	三・七	地面ヨリ一尺迄	一厘—一分一厘	十六個	地面ヨリ一尺ノ間ニ散在ス	
大牟田川	三・五	地面ヨリ三尺迄	二厘—二分	六〇個	地面ニ四十五個二尺迄二十個・三尺迄ニ一個附着ス	

十月ニ至リ着生ヲ見タルカ如キハ今回ヲ以テ嚙矢トス、例年果シテ此ノ期節ニ産卵スルモノアリトセハ海苔養殖ヲ利用スルコトヲ得ヘク且ツ此ノ時期ヘじめきノ着生モ極メテ少キヲ以テ採苗上有利ニシテ趣味アル研究タリ

(3) 蛎貝養殖試驗

大正八年春季大川尻、西ノ洲、沖端川尻、七ツ羽瀬さかて並ニ中島川尻字ひらとヲ主トシ其ノ他三池

郡地先ヨリ大牟田市地先ニ至ル沖合一帯淺瀬貝ノ發生饒多ナルコト數十年來稀有トスル所ナリキ、今其ノ發生狀況ノ一例ヲ記セハ五月中旬西ノ洲ニ於テ一坪平均五千個入ノモノ一坪ニ對シ九坪五合ヲ生産シ大潮時ノ干潮時間約二時間ニテ一人平均採取高一石二斗七坪ヲ算セル程ナリキ、五月中旬山門郡兩開村地先ニ於テ土質及地盤ノ高サヲ異ニスル各地ニ殼長五分一坪五千個入ノ種貝ヲ坪當一坪、二坪三坪、四坪ニテ總計一千七百十五坪ノ蒔付ヲ行ヒ更ニ六月下旬殼長八分五厘一坪一千個入ノ種貝ヲ採取シ坪八坪蒔百坪、坪一斗蒔二百坪ノ蒔付ヲ行ヘリ、六月二十一日大暴風ノ爲メ約二割乃至四割ヲ散亂セシメラレ次テ八月十六日ノ大暴風高潮ニテ約一割乃至二割ヲ失ヒ尙ホ方言「へそくり」貝 (Natori maculosa Lam) ノ爲メ被リシ害モ少カラサリキ而シテ風害ハ六月二十一日ニ於ケル風勢八月十六日ノモノヨリ弱カリシモ蒔付後間モナカリシ爲メ被害ノ程度激シク又びなノ被害ハ砂地程其ノ害甚シカリキ詳細ハ次年度採取ノ上報告ヲ期ス

あさり種貝採苗試驗

みろく種貝附着器ニヨリ同時ニあさり種貝着生ノ如何ヲ調査スルコト、シタルカ、四月建込ノ分ハ暴風ノ爲メ不結果ニ終リ又海苔養殖ニハ着生ヲ見サリキ

(4) 海苔養殖試驗

(1) 試驗ノ目的



昨年度初メテ試験ヲ行ヒタル結果、大牟田市及三池郡地先一帯ハ海苔養殖場トシテ極メテ有望ニシテ而モ其面積甚タ廣域ナルヲ確メ得タルヲ以テ本年度ハ更ニ前年度ニ繼續シテ着生區域、胞子發生時期附着層、成長度ヲ明カニシ海苔發生及生育條件ヲ究メ併セテ經濟試驗ヲ施行シテ以テ斯業興隆ノ基礎ヲ確立セシムルヲ期セリ

(ロ) 試驗ノ方法

大正八年十月八日ヨリ全月十五日迄ノ期間ニ於テ三池港突堤南側ナル三池郡三川町早米來地先ヨリ開村黒崎ニ至ル三池郡並大牟田市地先一帯及山門郡中島川尻ヨリ沖端川尻ニ至ル間ノ干潟面ヲ基板目ニ區劃シテ總計八十五箇所ニ女竹簾一箇所ニ付五十本宛ノ建込ヲ行ヒ尙海中各所ニ設置セル羽瀨ヲ參考トシテ海苔着生區域附着層及生育狀況ヲ調査シ、一方胞子附着ノ時期ヲ明カニセン爲メ三川町諏訪地先一定ノ塲所ニ於テ九月下旬ヨリ二月マテ毎月朔望兩大潮時ニ簾建ヲ行ヒ更ニ全所ニ於テ一反歩經濟試驗ヲ施行シ又三池郡銀水村地先ヨリ山門郡地先ニ至ル一帯ニ移植試驗ヲ爲シテ其ノ生育狀況ヲ調査シ而シテ一方海洋觀測及地盤ノ高低等ノ調査ヲ行ヒテ發生條件ニ就キ考究セリ

(ハ) 試驗ノ結果

(一) 着生區域

大正八年ニ於ケル海苔着生區域ハ大牟田市地先ニ於テハ大正七年ト同様ナリシモ鹽塚川尻ヨリ沖端川

尻方面ニ向ヒテハ昨年ニ比シ更ニ着生區域ノ擴大ヲ見タリ、コハ海水比重カ昨年ニ比シ高カリシニ基因ス、全區域中生育上等地ハ三池突堤ヨリ三池郡銀水村地先ニ到リ約三百五十萬坪ヲ有シ中等地ハ三池突堤ヨリ三池郡開村地先及山門郡中島川尻ニ到リ約百二十萬坪ヲ有シ見込地ノ區域頗ル廣大ナリ



(二) 附着層

四四

有明海中ニハ沿岸ヨリ沖合ニ至ル各所ニ定置漁具タル羽瀬ノ存在多ク、之ニ使用スル竹ハ大ナルハ經二寸五分ヲ有シ眞直ニ樹立セルヲ以テ海苔附着層ヲ調査スルニハ至便トスルモノナリ、依テ附着層ハ前記女竹葉ヲ參考トシ主トシテ前記羽瀬竹ニ付キ調査ヲ行ヘリ、海苔ノ着生條件ハ海水比重ノ外、干出時ノ關係即チ地盤ノ高サニ支配セラル、事大ナリハ、特ニ附着層ハ地盤ノ高サニヨリテ略ボ決定セラ、モノト云フヲ得、イマ年間ノ最大干潮ヲ基準トシテ地盤ノ高サヲ測定スルニ大牟田市及三池郡地先ニテハ沿岸ハ約十四尺内外ノ高サニアリ而シテ海苔ハ地盤ノ高サ四尺ノ地點ニテハ附着層地盤ヨリ八尺ヲ有シ地盤ノ高サ七尺ノ地點ニテハ附着層地盤ヨリ五尺トナリ地盤九尺ノ地點ニテハ附着層地盤ヨリ三尺トナル、即チ地盤ノ高サヲ増スニ從ヒ夫レ丈ケ附着層ノ長サヲ減ス而シテ地盤ノ高サ十尺ニ至リテ着生ヲ認メス地盤四尺以下ニ於テ果シテ前記ト反對ニ附着層ヲ増スヤ否ヤニ就テハ尙不明ノ點アルヲ以テ目下考究中ナリ、而シテ何レモ地盤ヨリ五寸乃至一尺内外附着セサル區域ヲ有セリ此ノ理由ニ就キテモ目下研究中ナリ

(三) 胞子附着時期及生長度

築建ノ最適時期ヲ決定センカ爲メ九月下旬ヨリ毎月朔望大潮時ニ三池郡諏訪地先ニ於ケル生育中等地(地盤ノ高サ六尺)ニ女竹葉五十本宛ヲ建込ミ其ノ附着時期及生長度ヲ調査シタルニ左ノ如キ結果ヲ見

タリ

- 1、九月二十四日建ノモノハ十月下旬ヨリ十一月始ニ於テ檢鏡ノ結果着生セルヲ認メ十一月八日ニハ長キモノ七分ニ生長シ十二月下旬ニハ最大長サ五寸六分トナリ摘採シ得ルニ至レリ而シテ一月下旬ニハ一尺以上ニ達セリ
- 2、十月八日建ノモノハ十一月始ニ於テ發芽ヲ認メ全月下旬ニ長キモノ五分ニ生長シ十二月下旬ニハ長サ四寸七分トナリ摘採シ得ルニ至レリ而シテ二月下旬ニハ長サ八寸乃至一尺ヲ有セリ
- 3、十月十五日建ノモノハ十一月月上旬迄ハ發芽ヲ認メサリシモ全月下旬ニハ長サ一分トナリ十二月下旬ニハ三寸四分ニ生長シ二月下旬ニハ最長五寸乃至六寸ノ長キニ達セリ
- 4、十月二十二日建ノモノハ十一月下旬ニ於テ肉眼ニテ發芽ヲ認メ長サ五厘ヲ有シ十二月下旬ニ漸ク七分ニ生長シタレ共二月下旬ニハ長サ五寸五分ニ生長セリ
- 5、十月三十日建ノモノハ十二月上旬ニ漸ク肉眼ニテ見ルヲ得十二月下旬ニ一分ナリシモ二月下旬ニハ四寸五分ニ達シタリ
- 6、十一月八日建ノモノハ十二月下旬ニ於テ肉眼ニテ見エ長サ五厘ヲ有セリ而シテ三月下旬ニハ四寸乃至四寸五分位ノモノ多數着生セルヲ見タリ
- 7、十一月二十二日建ノモノハ三月下旬調査ノ際最大四寸乃至五寸ヲ有セルモ點々着生セルノミ

四五

8、十二月上旬以後建ノモノニハ遂ニ着生ヲ認メサリキ  
 右ノ事實ニヨリ推定スル時ハ胞子ハ大体十月中旬ヨリ十一月上旬迄ニ於テ附着發芽スルモノ最モ多ク  
 其ノ後ハ著シク減少シツ、十一月下旬頃迄發芽スト云フヲ得ヘシ、依テ築建時期ハ九月下旬ヨリ十月  
 中ナルヲ要シ特ニ九月下旬ヨリ十月上旬ニ至ル建込ヲ最モ有利トスルモノ如シ、而シテ之ヲ昨年ト比  
 較スルニ大体同様ノ結果ヲ示セルヲ見ル只昨年ハ第一回建込十一月上旬ナリシモ本年ハ九月下旬ニ建  
 込ミタルニ其ノ生育最モ良好ナルヲ認メ而モじめきノ着生ハ極メテ少量ナリキ

(四) 移殖試驗

十月上旬大牟田地先上等地ニ建込ミタル筭ヲ十一月下旬ニ於テ前記着生區域ノ項ニ述ヘタル中等地下  
 等地及不發生地ニ移殖試驗ヲ行ヘリ、當時海苔ノ長サ一分乃至二分ナリシカ黒崎地先ヨリ深倉開地先  
 ニ至ル如キ不發生地ニ於テハ最長五分乃至一寸ニ生育シ下等地ニ移殖セルモノハ中等地ノ程度即チ長  
 サ約三寸乃至五寸ニ生長シ中等地ニ移殖セルモノハ上等地即チ長約五寸以上ニ生育セリ

(二) 發生及生育條件

(一) 地盤ノ高低

海苔ノ發生ハ地盤ノ高低即チ干出時間ノ關係ニ支配セラル、事甚タ大ナリ即チ年間ヲ最大干潮面ヲ基  
 準トシテ之ヲ謂フ時ハ地盤ノ高サ十尺迄ハ着生スヘキ可能性ヲ有ス而シテ發生及生育上等地ハ地盤ノ

高サ六尺以下ニシテ夫ヨリ地盤ノ低キニ從ヒ附着層ノ長サヲ増シ且其生育良好ニシテ反對ニ地盤ノ高  
 クナルニ從ヒ漸次層ノ長サヲ減シ且生育不良トナリ十尺ニ至リテ附着ヲ見サルモノトス

(二) 海水ノ比重

海苔ノ發生ニ對スル海水比重ハ地盤ノ高低ト共ニ重大關係ヲ有ス今調査結果ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ  
 有明海前ノ海ニ於テハ其關門タル三池燈臺竹崎島間ノ橫斷觀測ニ於テ一、〇二四、〇〇以上ノ海水ハ稀  
 ニ侵入ヲ見ルノミニシテ一、〇二四、五〇以上ノ水ニ至リテハ極メテ稀有トスル所ナリ從ツテ本縣地先  
 海苔場ニ於テハ一、〇二四、五〇以上ノ比重ヲ有スル海水ノ侵入スル事極メテ稀ニシテ普通一、〇二三、  
 〇〇内外ヲ示シ時ニ一、〇二四、〇〇ニ達スル事アリ而シテ海苔發生ニ對スル比重ノ最高限界ハ未タ明  
 カニ之ヲ知ルヲ得サルモ少クトモ有明海前ノ海ニ於ケル海水比重ノ範圍内ニ於テハ高キニ過クルカ爲  
 メ發生セスト云フカ如キ事實ヲ認メス依テ本縣地先ニ於ケル海苔ノ分布及其ノ豊凶ハ主トシテ低比重  
 水ニヨリ支配セラルト云フヲ得ルカ如シ、而シテ本年海苔發生ノ上等、中地及不發生地ニツキテ毎月  
 大小潮時潮間觀測ヲ行ヘル結果ヲ綜合スル時ハ最低比重ノ限界ハ略ホ一、〇二一、〇〇ニシテ下等地ハ  
 一、〇二一、五〇以上、中地ハ一、〇二二、五〇以上、上地ハ一、〇二三、〇〇以上ナルヲ示セリ而シテ  
 海苔場ニ於ケル海水比重ハ滿チ掛ケニ於テ低ク滿潮ニ於テ最高ヲ示シ又大潮時ハ小潮時ニ比シテ高キ  
 ヲ一般ノ通則トスレモ上地、中地、下地及不發生地ニ於テ同時觀測ノ結果ハ五合滿頃ヨリ滿潮ニ及ビテ

ハ各地共略ホ全一比重トナルコト多シ然レ共滿テ掛ケヨリ五合滿頃迄ヲ比較スル時ハ上、中、下及不  
發生地ニ於テ前記ノ如キ差異ヲホス故ニ海苔ト比重トノ關係ヲ調査スルニ當リテハ大小潮時ノ橫斷觀  
測ノミニテハ到底條件ヲ究メ難ク必ラス大小兩潮時ノ潮間觀測ニヨラサルヘカラスシテ殊ニ小潮時ニ  
於ケル滿テ始メヨリ五合滿位迄ノ調査ヲ必要トナス

(三) 海水ノ溫度

水温ハ海苔ノ發生時期ト密接ナル關係ヲ有ス大正八年ニ於テハ前記ノ如ク胞子ハ十月中旬ヨリ十一月  
上旬迄ニ發芽スルモノ最モ多クシテ其ノ後十一月下旬迄ハ僅カニ着生ヲ見タリ而シテ此ノ期間ノ前後  
ニ於ケル海水比重ヲ見ルニ特別ノ變化ヲ認ムル能ハス依テ發芽ハ主トシテ水温ノ關係ニヨルモノト云  
フヲ得而シテ此ノ期間ノ水温ハ二十度乃至十五度ニシテ十月下旬ヨリ十一月上旬迄ハ二十度乃至十八  
度ヲ示セリ即チ之ニ據ル時ハ海苔胞子ハ水温二十度乃至十八度ニ於テ最モ好ク發芽スルモノト云フヲ  
得ヘキカ如シ

九 玉筋魚ノ糟試驗

技手 福井 守 一

由來筑前沿海漁村ハ春季ノ玉筋魚秋季ノ鰯ノ二大漁業ヲ以テ生活ノ基礎トセルモノニシテ就中春期ノ  
玉筋魚ハ全テ之レヲ養乾品ニ加製シ中國以西ニ擴ク需用セラル、モノナレモ終漁期ニ於ケル大形原料

ハ養乾品ニ適セス爲ニ之ヲ土乾肥料トナスヲ普通トスレモ含有脂肪分多量ニシテ直チニ脂油燒ケテ來  
タシ製品ノ價值ヲ墜スコト頗大ナルノミナラス肥料トシテハ有害性分ヲ多含スルノ理ニシテ施肥ニ害  
ヲ及ホスノミナラス貯藏ニ困難ナルヲ以テ本場ハ之ヲ糟ニ加製シ肥價ノ昇上保存期ノ延長ヲ計ルト  
同時ニ副産物タル油分ヲ以テ飼餌料ノ貯藏試驗ヲ施行スヘキ豫定ナリシニ本年度ハ全ク玉筋魚ノ漁獲  
ヲ見ス就中大形玉筋魚ノ如キハ魚獲皆無ト稱スヘキノ狀況ニシテ遂ニ試驗ヲ施行スルヲ得サリシハ誠  
ニ遺憾ナリシカ事情不得已ヲ次年度ニ於テ施行スルコト、セリ

十、漁業取締

從來本場試驗船ハ冬試驗調査等ノ餘暇ヲ利用シ縣下各沿岸ニ於ケル漁業ノ取締ニ從事シツ、アリテ漁  
船ヲ海丸ニアリテハ玄海灘方面ニ於テ其取締ニ從事シ違犯者ノ防遏ニ努メツ、アリシモ尙ホ一部ノ漁  
業者ニアリテハ往々違犯行爲アリ遺憾トスル所ナリシカ殊ニ筑豊沿岸ニ於ケル専用漁場内ニ於テハ屢  
々違犯船アルヲ見ル傾向アリ筑豊水産組合ニ於テモ之レカ取締方申請シ來リタルヲ以テ是レヲ了トシ  
夏季該方面ニ於テ主トシテ一本釣漁業ニ就キ取締ニ從事シ數隻ノ違犯船ヲ發見シ告發若クハ説諭放還  
シ銳意漁業ノ取締ニ從事セリ一方豊前海方面ニアリテハ英彦丸ヲ以テ各試驗及調査ノ傍ラ前年度同様  
五月中旬ヨリ十二月末日迄繼續シテ漁業取締ヲ勵行セリ

而シテ春季ハ重ニ掛網ノ調査ニ從事シタルニ漁場ノ位置不定網數ノ違犯少ナカラサルヲ發見シ極力是レカ改善勵行ニ努メタリ秋期ハ打瀬網取締ニ重キヲ置キ其間取押ヘタル違犯船實ニ二十二隻ニ及ヘリ此レヲ昨年度ノ三十一隻ニ比スレハ九隻ノ減少ヲ見タリト雖モ此事實ヲ以テ當業者自覺ノ例證トスルニタラス掛網ト共ニ當業者ノ徹底的自覺ヲ促カシ一方ニ益々本船ノ嚴重ナル取締リヲ必要トス今月別ニ依ル違犯船數ヲ示セハ

月別	違犯船數	月別	違犯船數
五月	一	一月	三
六月	一	二月	〇
七月	三	三月	〇
八月	〇	四月	〇
九月	五	五月	〇
計	二二	計	二二

五〇

### 十一、指導並ニ講習講話

#### (1) 鰯油漬罐詰指導

鰯油漬罐詰ハ引續キ前二回ノ講習ヲ以テ實業的企劃ヲ見ルニ至リタルヲ以テ本年度ニ於テハ斯業者指導ノ目的ヲ以テ設備其他備品ヲ當業者ニ貸與シ事業ノ經營ヲ容易ナラシムルト共ニ右當業者ヲシテ實

技手 福井 守一

地のニ職工ノ養成ニ當ラシメタリ而シテ本場ヨリハ其間時々技術者ヲ派遣シ指導監督ヲ行ヘリ

#### (2) 養殖指導

技手 安西 清

筑前海方面ニ於テハ介藻類ノ天然養殖ヲ行フ時ハ之レカ増殖ヲ計リ得ルモノ少ナラス其實行方法ニ就キテハ考慮中ナリシカ會々漁業組合ニ於テ之レヲ企劃シタレハ宗像郡津屋崎浦及遠賀郡岩屋浦ニ於テ鮑養殖及成長度試験ヲ宗像郡地島ニ於テ海羅遠賀郡柏原浦ニ於テ岩海苔増殖法ニ就キ各々指導スル所アリタリ即チ岩屋浦ニ於テハ七月十七日鮑体長最大二寸五分最小一寸七分重量五匁乃至十八匁餘ノモノ採取シテ組合地先鬼ヶ坂浦ニ移植シ其中二百〇六個ニ對シテハ一ヶ年後採捕ノ目的ヲ以テ各々標識ヲ附シ成長度試験ノ用ニ供シタリ津屋崎浦ニ於テモ同様五月四日稚介平均大サ二寸、八匁弱ノモノ六十八個ヲ標識シ深瀬磯ニ放養シタリ、柏原浦ニ於テハ岩海苔發生場沖ノ瀬約三百坪ニ對シ附着岩面ノ凹凸ヲ破壊整理シ同時ニ二十二坪餘ノ「セメント」ヲ塗抹シテ表面ヲ平滑ナラシメ以テ着生面積ノ擴張及採取ニ便ナラシメタリ、地ノ島ニ於テハ海羅ニ付キ前同様ノ目的ヲ以テ八月十一日ヨリ十四日マテ組合地先ニ難破セル運搬船ノ投棄シタル「セメント」ヲ樽ノ儘凝固シタルモノ二百六十四個ヲ引揚ケ須賀崎及新防岐堤前ニ適宜配列シテ着生状況試験材料ニ供シ別ニ須賀崎繩瀬ニ於テハ粗荒岩面三十八坪餘ニ「セメント」塗抹ヲ行ヒタリ

#### (3) 漁船々員講習

技手 林 卯吉  
技手 佃 川 可也

期日 自大正八年九月二十四日至全年十月四日  
 場所 糸島郡前原町  
 科目 漁船運用法  
 氣象一般  
 海面使用法  
 船具取扱法  
 颶風豫知法

(4) 鯨節製造講習

期日 自大正八年九月二十四日至全年九月三十日

技手 福井守一

場所 宗像郡神湊町

(5) 水産講話

期日 大正八年六月六日  
 場所 糸島郡前原町  
 講話要項 遠洋漁業獎勵  
 期日 大正八年六月七日  
 場所 宗像郡津屋崎町

講師 金近場長

金近場長

大正八年六月九日	山門郡沖ノ端村	全	金近場長
六月十一日	築上郡八屋町	全	金近場長
六月十二日	企救郡柄杓田村	全	金近場長
十月六日	糟屋郡香椎村	漁業組合施設事業	金近場長
十二月廿三日	糸島郡可也村	淡水養殖 一般	安西技手
十二月廿四日	全 怡土村	全	安西技手
十二月廿五日	全 周船寺村	全	安西技手
大正九年二月二十五日	宗像郡勝浦村	水産製造 一般	福井技手
二月二十六日	全 神湊町	全	福井技手
二月二十七日	全 岬村鐘崎浦	機船手繰網漁業	喜多山技師
二月二十八日	全 岬村地ノ島浦	全	喜多山技師
二月二十九日	全 大島村	全	濱島技師
三月一日	全 福岡町	全	濱島技師
三月二十三日	早良郡姪濱町	全	喜多山技師
三月二十四日	早良郡殘島村	全	喜多山技師

終

